

令和3年度第3回補助金等審議会 会議録

日 時：令和3年12月14日（火）13時30分～14時45分

場 所：伊予市庁舎3階庁議室

出席者：東瀨則之委員、太田響子委員、佐藤清志委員、佐藤宏美委員、木本敦委員

事務局：未来づくり戦略室（西山・岡井・曾我部）

1 開会

委員全員の出席を報告し、会議の成立を確認した。

2 議事

(1) 第2回補助金等審議会会議録の確認

まず第2回の会議録の確認を行った。補助金交付状況については、委員から指摘のあった数値の書式修正（桁ずれ）を施した後、11月9日に第1回補助金等審議会の会議内容の公開と合わせ、市ホームページ上に公開した。また、補助金等交付に係る効果（成果）の記載の現状を報告した。補助金等交付規則、ガイドラインの修正に関しては、条文をシンプルにするという主旨の下、案を提示し、意見をいただいた。最後に審議会日程を調整し、会を閉じている。

(2) 伊予市補助金等交付規則の修正案について

資料2「伊予市補助金等交付規則（修正案）」、資料3「規則の新旧対照表」を基に説明
(事務局)

会議録の確認でも触れた補助金等交付規則修正案に関し、大きく3点の指摘があったと思う。①第18条（取得財産等の処分）における、取得財産等の「等」の表現について。②その処分に係る市への納付のあり方について。③タイトルの伊予市補助金等交付規則の「等」について。それ以外の言葉の定義付けや表現をシンプルにすることについては、了承いただいている。この指摘について、法制担当と協議を行った。資料3の内容で提案する。

規則名そのものは「等」を入れる。考え方として、一般的な補助金その他交付するものの総称を補助金等とし、その規則中、「補助金」という言葉を定義することとしている。資料にはないものの、同様に意見のあった「伊予市補助金等の取扱いに関するガイドライン」も「等」を含めたものとする。

次に第18条について。見出しの「取得財産等」、前回の審議会で「等」を

付ける理由が思い浮かばないという意見はご指摘のとおりであり、「取得財産の処分」と修正している。また、第2項については、結果として削除することとした。記載が必要な場合は、個々の要綱において定めるべきとの結論となった。この部分については、前回委員から、どのような性質のものが備品となり、どういう線引きをされるのかという質問があった。この点に関して協議した結果、まさにケースバイケースの判断になるとのことであった。これまでのケースでは、第1項の第1号「不動産及びその従物」、第2号「機械及び重要な器具で市長が指定するもの」で該当するものがあった。第3号は、定めはあるものの、具体例は今までなかったのではないかとのことである。

まず第1号「不動産及びその従物」について、新たな不動産の取得もあれば、例えば不動産の一部を修繕（資本的支出）し、固定資産の価値や耐久性を高める補助もある。資産の処分に関して一概には言えないということで、その線引きは難しいだろうと。また、第2号「機械及び重要な器具」に関しても、それぞれ耐用年数が異なっており、事業実施期間に合わせた対応が必要であり、こちらもケースバイケースになるだろうとの判断である。耐用年数を超えると簿価は備忘価格の1円となり、線引きは難しいのではないかと。例えば補助を受けた事業者が事業を始めたものの、何らかの事故があり事業が継続できない場合、それから途中で事業を中止した場合であって、現在価値が残った状態で処分が必要な場合、そういう想定の下、適用することはあるが、ほぼ適用はないのではないかという意見であった。このことから細かな線引きという明文化は難しいとの判断に至った。したがって、第2号をあえて付けると、詳細な記載の必要性も出てしまうので、個々の補助金が必要が生じる場合に、その要綱内で記載することとする。

これらの意見を踏まえ、資料2の交付規則修正案として整理したいと考えている。この3点を除く内容は、反映した状態となっている。

(会長)

事務局から、前回の委員の意見を受け、補助金等交付規則の見直しについて説明があった。この件について、質問や意見はないだろうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特に委員から修正の意見もないようである。それでは、この内容で規則を変更いただくこととする。

(3) 令和3年度当初予算に係る補助金等チェックシートの記載について

資料1「令和3年度当初予算時補助金等チェックシート」を基に説明

(事務局)

この資料は、補助金等の取扱いに関するガイドラインに定める補助金等チ

チェックシートの内容であり、予算要求時に提出を求めているものである。資料の表裏で1つの補助金を表示する形となっている。チェックシートの転記であるが、記載項目が多いため、一部割愛している箇所がある。

表の見方として、それぞれの項目は、各課の担当者が記入している内容を転記している。上部中央から右肩にかけ、凡例を用意している。まずフォントをゴシック体と明朝体に分けている。伊予市補助金等の取扱いに関するガイドラインにおいて、見直し対象と指定している補助金（施策的補助金の団体補助及び事業補助、奨励的補助金、その他）をゴシック体で示しており、その他（国・県補助金、協調的補助金、施策的補助金の個人補助）を明朝体で示している。太字のゴシック体が見直し対象と判断いただければと思う。ただ補助金の性質の分類で「その他」となっているものには、会費的なものも含まれており、ガイドラインの見直し区分にある「その他」とは若干異なる内容が含まれている感じがする。

凡例の説明の続きである。国・県等の補助金を含むもの、これは前回委員から、交付状況の公表に際して国・県の補助の有無を表示してはどうかという発言があり、試用的な形ではあるものの、行全体を着色して区分している。色が付いているものは、国や県など何らかの補助金が含まれていると判断いただければと思う。もう一つ、KPIの設定が難しいと思われるもの、今回の資料を見てお分かりのとおり、KPIを設定するとして項目を作っているものの、記入に関して濃淡があり、徹底してKPIを記載している課もあれば、記載していない課もあるのが現状である。どちらかと言えば設定している方が少ないという印象である。その中で、KPIの部分で網掛けしているところは、事務局が独断で判断し、KPIの設定が難しいのではないかと判断したものである。ガイドラインの見直し対象外に該当する補助金が多く含まれているのだが、中には見直し対象の補助金のものもあった。これらについてどういう効果測定を行うか、取り扱いが難しいと感じながら資料を作った。

前回の審議会で提示した補助金の申請書や実績報告書の「効果欄」の記載のあるなしと似たような結果となっている。どちらも新たな取り扱いを始めた年であるので、まだ課題が残っている状況である。一朝一夕の改正は難しいところではあるが、委員の意見も踏まえつつ、今後の進捗に向け、前向きに考えたいと思う。

(会長)

事務局から補助金等チェックシートの記載についての報告があった。何か意見はあるだろうか。

(委員)

補助金全体についての意見でよろしいか。内容で分かりにくかったのが、

資料 12 ページ、エクセルの表の加工が何かリンクされるのか、61～64 の財源内訳が全部 1 となっている。これは何か。

(事務局)

こちらは、記載誤りではないのだが、内訳をパーセンテージで入力していた場合の表示上の問題である。61 番であれば 100%、36 万円全部が一般財源と理解いただきたい。

(委員)

16 ページの 81 も同じことだろうか。

(事務局)

この 81 番は、一般財源が 50%、国が 50%という内訳であり、四捨五入の結果 1、1 という表記になっている。この補助金の内訳については、補助金の構成額を書いている課もあれば、構成比率を書いている課もあった。確認不足であった。現時点では、そういう内容ということでご理解いただきたい。後ほど資料は修正する。

(委員)

なるほど。続けてよろしいか。表は見やすくなっており、それぞれの補助金の主旨や事業内容、必要性、公益性、有効性、公平性について、どう考えられているか裏表で大枠、概略が見えるようになっている。ただこの必要性、公益性、有効性、公平性について、◎と○以外ほとんどないと思った。あつて△である。行政の無謬性¹というか、意味のないことはやっていないということ、担当課が予算を上げるときに添付書類に×が付いたものを上げる訳がない。そういう意味で、この必要性、公益性、有効性、公平性をどう活用していくのか考えていた。無理やり差をつけるとか、あるいは◎は全体の 1/4 とか 20%とか、○、△、×を 1/4 にしてもらえれば、その課の補助金の金額ベースか件数ベースかにもよるが、その濃淡について、見直すべき補助金が絞りやすくなるのではないかと思った。あまり○ばかり付いているのを見ても、市民に公表して、補助金について考えてもらう機会にするという主旨であるのなら、○というのは、それはそうだねとなってしまふかなと思う。

それから、この活用方法である。市のホームページで公表しても、ほぼ見る人がいない。皆さん忙しい中で、これを見て考える時間は取りにくいと思うので、どうするか考えないといけない。例えば見てもらう時間を作る機会として、中学校の社会において資料の抜粋（一部）を見せ、説明し、子どもに教えれば、子どもが家に帰って親に報告して議論が深まる。思いついたのはそういう感じであるが、せっかく作ったものなので、何か活用していく方

¹ 無謬性（むびゅうせい）…理論・判断などに、誤りがないとする傾向

法、市民に見てもらおう機会を確保するための方策が必要かなと思った。以上である。

(会長)

必要性、公益性、有効性、公平性の部分が絶対評価になっており、なかなか否定的な評価は付かないのではないか。それをどうしていくか。絶対評価ではなく、何らかの相対評価としてはどうかと。あと、これだけの資料を作っているのだから、今後どう活用していくかという提言があった。これに関して市はどうお考えか。

(事務局)

まず◎、○、△について。実際には、「非常に高い」「やや高い」「やや低い」という3つの項目しか選べない。資料の表示枠が小さいので、非常に高い＝◎、やや高い＝○、やや低い＝△と表示している。相対的な見直しをしようかという意見であったのだが、審議会当初に、各課別の補助金支出を紹介している。産業分野や福祉分野に制度的な補助が複数あり、そこで優劣をつけるのは難しい。国が示す補助に関し、導入に際して精査する必要はあるものの、他市町とある程度横並びの状況はやむを得ない。この市はやっているけれど、伊予市はやっていないというのは説明が付きにくい。その前提でどれかをやめるといふのであれば、優劣をつける必要性があると思うのだが、現状では難しいと思う。

次に中学校の授業で使ってみては、という資料の活用に関する意見を頂いた。これは思い付きであるが、例えばアニメ的な要素を取り入れて、補助金はこう活用されている、こういう目的でやっている、項目を読み解いた形で公表するとか、LINEで二人がやり取りを進行させる形式にするとか、市民が読みやすい形にすれば、実際の内容を見てみようという誘導ができるかもしれない。触れてもらえる機会を少しでも増やす工夫をしたいと思う。どのような形になるのか分からないが、もし実現できれば、報告する。

(委員)

よろしいか。今の委員の提案ややり取りを非常に興味深く伺った。もちろん優劣をつける難しさはあると思う。それはさておき、この活用として、当初の目的として市民に身近なものにしていくというのはあったかと思う。学校教育の中で活用するという話であったが、例えばこの必要性や公平性、公益性などの優劣をつけるだけではなく、教育の話を終めるなら、SDGsのどの項目に当てはまるかという、教材として使うのはどうかという思い付きである。大学の授業で、自治体の総合政策とか総合計画とか話をすると、自治体はこれほどまで細かく多様な施策政策をやっているのかと、学生からちょっと驚いたという素朴な意見がある。総合計画は、自治体のあらゆる政策があ

り、一般市民からは少し遠いものに見られがちである。しかし、この補助金となると、身近なところでお金が出ているので、教材としてうまく使えばより身近なものになるのではないかと思った。先ほどの SDGs に絡めたようにして見せるとか、将来的にはこの必要性、公益性、有効性、公平性を市民参加の場や教育現場で、定期的に評価し直すものとして使えればいいのではないかと思った。

(事務局)

貴重な意見ありがとうございます。先ほどのどういう見せ方をするのか協議するとともに、SDGs は力を入れている分野でもあるので、提案も含めた形で検討させていただければと思う。

(会長)

活用方法を検討いただき、多くの活用をしていただく形で努めていただければと思う。

(委員)

よろしいか。まず形式面である。例えば 19 ページの 107、108 番のところ、KPI 設定のところ、色の濃い部分と薄い部分がある。多分国・県等の補助金を含むものかつ KPI の設定が難しいものが色濃くなっていると思うのだが、一瞬何のことか分からなかった。そこは説明を加えるとか、違う書き方をした方がいいと思う。

次に広報や周知のことである。市民が補助金をそもそも知らないというか、本当なら使える人が、知らないまま補助金をもらわないでいるというのはすごく悲しいことである。趣旨が違うかもしれないのだが、こういう補助金があるということを伝えていかないといけないと思う。例えばの話であるが、転入届を出す際に、多分どの市町も冊子みたいなものをくれると思う。そういうものにつけるのも一つの考えかなと思う。

(会長)

一つは、KPI の表示の説明が少し分かりにくいのではないかということ、もう一つは、補助金そのものの、今後のさらなる活用という観点からの広報の提案であった。事務局から回答があればお願いします。

(事務局)

まず表示については、おっしゃるとおりである。108 番（犬・猫不妊去勢手術費補助金）は、国・県の補助がありつつ、何匹手術すればよいかという設定は難しい。KPI 設定するにしても、予算の範囲内で割り戻して何匹手術するという程度である。数値達成すれば、今後どんどん増えることを防ぐことになるかは判断が難しい。そういうことで、網掛けにしている。見づらい形になっているので、表示、掲載の際には見やすくなるよう、検討する。

もう一点、補助金を使える人が知らないまま使えないことがないようにという提案があった。補助を使いたい人が、使いやすい場面を想定して、扱いやすい検討をしたい。余談ではあるが、10月に県外業者と空き家問題解消に関する連携協定を結んだ。周知用のチラシを作ってくれるということで、紙面の1/8のフリー部分に空き家に関する市の補助内容を表示することになった。市というのは、どうしても補助金名から入ってしまう。まず補助金名があって、どういう内容、目的があって、こういう効果がある。補助額はいくら、対象者はこういう人だと。市民が気になるは、自分が補助対象になっているかどうかである。そこで、今回は移住者の方、建物の解体を検討されている方には、こういう補助金がありますよという形で作った。市民からの問い合わせでも実際の補助金名称を挙げて、その内容が聞きたいということは少なく、この農産物を作っていたら補助が出ると聞いたところから、担当者が補助金に結び付けて説明することが多い。この資料も補助金名から記載しているが、今後は対象者から見やすいものに転換を進めたいと思う。

(委員)

よろしいか。今の意見を聞いてふと思いついたことがある。参考になりそうかなと思ったのが、ごみを捨てる時、不燃ごみか可燃ごみか、プラスチックか、そういう分類表というか冊子が自治体にはある。またホームページの検索でキーワードを入れると、検索結果が出てくるものがある。そういうインデックスを探していくと、こういうものが該当しそうです。そういう作り方が参考になるのかなと思った。横浜市では「イーオのごみ分別案内」というAIを使ったシステムがあり、キーワードを入れるとこういうケースはこれに当たると答えてくれる。そういう市民が見つけたいものを比較的簡単に見つけられるシステムもあり得るかなと思った。

(事務局)

まさに、ごみ捨ての冊子のつくりのイメージになろうかと思う。見せ方になろうと思うのだが、最近AIチャットボット(自動的に会話を行うプログラム)が流行っている。宅配業者でもいつお届けしますかと、機械で自動的に照会することも増えている。本市でも現在導入を検討中であり、検索項目に広がりができるのであれば、補助金が欲しいというとき、こういう補助金があるという内容も検討したいと思う。

(委員)

私は、ガイドラインの見直し対象となる団体補助に先に目が行ってしまう。その観点から見ていると、補助開始年度が平成17年度とある。昭和生まれの私からすると、そんなに長い期間でもないかという感情もあるのだが、平成17年度と言えば、合併した年からのスタートである。おそらく団体補助のほ

とんどがその前からだろう。中には補助開始年度が不明と、かなり以前からという書き方もされている。平成17年と書くことにより、却って、まあそれくらいの時期から始まっているのかという、誤った情報の伝え方になりはしないかと思った。先ほどの色分けであるとか、凡例で◎、○、△の意味合いというものをどこかに入れて説明するといった工夫があった方がいいと思う。

(事務局)

色分けや◎などの凡例については、処理を加えて出したいと思う。平成17年を補助開始年度とするのか、例えば補助金交付要綱の設定年度とするのか、表示については検討したい。中には平成17年度から同じ要綱でやっているけれど、補助対象者は変わっているということもあると思う。合併前からずっと出しているものも数多くあると思う。市としてどういう表現で出すか検討させていただければと思う。

(会長)

何らかの注釈を入れてもらい、市民が政策に理解できるよう、細かいところまでは難しいかもしれないが、可能な限り広域的な範囲でやってもらうのがよろしいかと思う。

(委員)

補助の内容でたまたま目についたのだが、18ページの98番、伊予市農山漁村男女共同参画社会づくり推進協議会補助金の補助対象経費の割合が230%となっている。これはどういうことだろうか。

(事務局)

昨年度の補助金等審議会で審議いただいた内容で、実際の事業費用を上回って補助金を出している補助事業がある。団体補助には、かかった経費に関して上限いくらというもの、団体にいくら払うというものがある。この団体については、昨年度の支出総額13万円弱に対し、補助実績が30万円あった。結果的に団体の繰越金に直結している。

(委員)

なるほど。数字だけ見ると、異常な数値であり、少し説明が必要かなと思う。

(委員)

これまでの意見をなるほどと感心しながら聞いていた。この評価シートも最初の審議会に取り上げられたときから改良されており、最初に比べるとすっきりまとまって見やすいものになっている印象である。

(会長)

私からも意見を少し。まずKPI設定が非常に悩ましいところだと思う。KPIの項目をどう設定するか。それからいつを基準年にしていくかも考えないと

いけないと思う。端的に基準年は、特異な年度以外がいいと言われる。例えば2020（令和2）年度や2021（令和3）年度はコロナウイルス対策が非常に大きい影響がある。そういう年は基準年とせず、それ以前を基準年とするなど、特異な年度は排除する方が良いかと思う。

次に KPI の中身について。設定が適正かどうかは、判断する人によって違って来る。どう設定していくか、ある程度公式のようなものを全庁的に設定し、それに従って各部局で項目設定していただくのが望ましいと感じる。

その辺り事務局の考えを伺えればありがたい。

（事務局）

まず KPI の設定が悩ましいという意見であった。確かに補助金を出すということなので、何かしらの成果を求めて出すべきであろうと思う。どういうものでも構わないとは言えないが、何らかの設定は必要である。それを踏まえ、何年後か、基準年から見て、例えば3年後、5年後にある程度の進捗が図られるために補助金を出すものなので、実際に進捗が図られないのであれば、その原因を一旦見直した上で、それでも必要ということであれば、切り口を変えた形で補助金を出す、この辺りのことは、以前も意見を頂いていたかと思う。そういった考えを取り入れたいと思う。

基準年をいつにするかということで、今年度と昨年度は、おっしゃられたとおり、コロナウイルスの関係があり、特異な年である。そこを基準にしても比べられない。では、令和元年度にすればよいかということになると、2年前にどういった設定をしているかというのが、これまで見ていただいたとおり、KPI の設定もそこまで立てていない。2年前の審議会で平成30年度の補助金の審議をした際、効果がどこに書かれているのかという意見もあったくらい、効果を検証する材料が出揃っていない状況である。そこを踏まえて考えると、令和4年度、現時点ではコロナウイルス感染も若干下火になっている中での次年度、反転攻勢、これからしっかりやっという年でもあることから、例えばそこを基準として、5年後どういう状況になればいいのか、どういう形で進めていくのかを各課で設定してもらう。その設定してもらった方向に向かって、効果をどう測るか、それを KPI にする。ご指摘のとおり、KPI は人によりいろんな判断があらうと思うし、担当課によっても判断は異なると思うものの、5年後の成果を目指したときに測れる数値を設定してもらう。そうすると、遅くとも令和8年頃には、一旦成果も出る。取り扱いに関するガイドラインで、現状は今ある要綱で構わないということであるが、新たに見直す際は、根拠も新たな基準で作られた要綱になる。これまでずっと補助金を出していたため、方向性を定めるのは難しいと思うけれど、そういう形で少しずつ変化させていくということで、取り組みえないかと

考える。こちらについても、一度内部で協議して、どのような方向で進めていくか考えたいと思う。

(会長)

はい、ありがとうございます。令和4年からスタートということで、新型コロナウイルス感染も今よりはおとなしくなっているかなと思う。令和4年を基準年にして取り組む、スタートはそこを設定するという展開、私もそれが最善であると思う。

次に、KPIの設定をするために、やはり目的に対して近づいているというのが、年度ごとに見える方が望ましいと思う。したがって、ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係みたいなもの見える化しておく。今はロジックモデルという、行政評価などで使われているモデルもある。例えばそういうものを全庁的に書いていただき、その目的に至るまでの各プロセス、それを意識していただいた上でKPIを設定する。それを統一的にやってもらえれば、毎年同じような形での補助金の仕様がきちんとチェックされるのではないか。より目的に近づいているかどうかチェックできるのではないかと推測する。この辺りいかがだろうか。

(事務局)

どういった形で落とし込みができるかということにはなるのだが、おっしゃられた内容を各課が持っていれば、例えば人事異動で新しい担当に変わったときにも、この補助金はこういう方針で出しているということが伝わるかと思う。そういう仕組みとさせていただければと思う。

(4) 補助金等審議会最終答申に向けた意見について

資料4「補助金等審議会の経緯」を基に説明

(事務局)

これまでの審議会で議論を行った内容として、お手元に資料4を配布している。今回審議会を立ち上げるに当たり、10年前の第1期というか、以前行った補助金等審議会では、全補助事業を1件1件審議していた。今回は、1件1件審議するのではなく、何かしら統一的な見直しができないか。手探りの状態で、まずはベースとなっていた「補助金等の見直し基準」の見直しから進めていこうということでスタートした。

委員の意見の中でも、補助金を出すことが全て悪いことではないけれども、財政上厳しいので、何かしらの削減はやむを得ないであるとか、単に削減するだけでなく、チャレンジ的な補助金を出して、多くの方が関わる仕組みも必要だろうと。どうしても見直し基準は削除ありきの方向であり、そういう意見も出ていた。また、見直し基準で効果の測定を行う、効果が芳しくない

場合の基準があったものの、実際に効果を見ようとしても、その効果自体が分からないという意見が出る中、補助金の削減を目指した「補助金等の見直し基準」ではなく、補助金を出す仕組みを定めるガイドラインが必要では、という考えの転換、統一的な補助基準があって然るべきという意見が出た。そこからガイドラインが生まれ、さらには統一的な基準を作るべきではないかというところから、他市町で制定されている規則が本市は制定されていない。そこから補助金等交付規則の制定をすべきと。また、どんな補助金がでているか分からない、補助金が使えないという意見から、補助金交付の公表につながるなど、仕組みづくりについては、この3年間で一定の進捗があったのではないかと考えている。今はこれらの仕組みを浸透させていく途上段階であると思っている。

皆さまに委員の委嘱、諮問をしてから、本年が最終年度となっている。次回の審議会について、この後提案させていただく予定としているのだが、これまでの審議内容を踏まえた、最終の答申ということで進めたいと考えている。これまでの審議の過程で進んだ内容、また不完全な内容もあろうと思うのだが、委員それぞれの意見や提言を踏まえ、より良い補助金制度の運用に資するような内容としたいと考えている。

どのような内容でも結構なので、意見や感想を各委員から頂ければと思う。
(会長)

いよいよ最終答申に向けてということで、各委員の意見、感想を伺いたいとのことであった。各委員から発言いただく形でよろしいか。

(委員)

先ほども委員がおっしゃっていたのだが、最初に比べると、チェックシートも非常に見やすくなったし、分かりやすくなったと思う。ただ先ほど来、話が出ている KPI の問題など、改善すべき点は残されているとは思っている。ただ、この方向で引き続き改善していけば、より良いものが出来上がるのではないかと思う。

(委員)

私自身、純粋に仕組みを勉強させていただいたところが大きかった。皆さんがおっしゃるように、最終的に見える化をしていくことが一番大事で、それが市民にどれくらい見てもらえるか、活用してもらえるかというところであろう。もちろん試行錯誤は続いていくと思うのだが、まず市側が見える化をして、規則というきちんと法規的な形にし、ガイドラインを作って統一化を図るという姿勢は打ち出せたかと思う。委員としてすごくやりがいがあったと思う。

(委員)

先ほどチェックシートに関するコメントでも申し上げているとおり、市の担当者が自分の出している補助金を評価するときに、無謬性というか、間違っただことはやっていないというところがどうしても出てくると思う。もちろんそれはそうなのだが、定期的に見直していくためには、やはり何らかのウエイト付けとか価値判断がないといけない。担当者だけで完結はできないので、PDCAのCheckの段階で、継続的に外部の目を入れて、意見を入れていく機会を引き続き進める必要があるかなと思う。そのとき、先ほどの◎、○ばかりになると、どこが大事か分からなくなるので、無理にでもウエイト付けして、見直す余地が明らかになるような運営をしていくようにするのが良いのかなと思う。

(委員)

私も感想である。審議会委員として参加し、大変勉強になった。市民に分かりやすく、市民への説明責任という言葉が何回も出てきた。これまでの発言や質問を、会長はじめ委員や事務局に汲み取ってもらい、最終答申に向けたゴールが見えてきた印象がある。

(会長)

委員の皆さんから最後ご意見ご感想を賜った。私からも一言お礼を申し上げたい。補助金というのは、これまでややもすると、前例踏襲とか現状重視、現状維持というところで流れてきたと思う。しかしながら昨今、今後を見通しても、市の財政が非常に厳しいものがあると思う。市も様々な事業を進めていかないといけない。そのためには民間の力、市民の力が芽吹いていくという市の運営がやはり求められるのではないかなと思う。その手段としてこの補助金というのは、大変貴重なものであると思う。

今回、長年にわたり、委員の皆さまから本当に忌憚のないご意見、専門的な見地からのご意見、市民感覚としての貴重なご意見、そういうものを賜りながら、その仕組みに対して事務局が適切に対応していただいて、今日を迎えることができた。ただ、まだまだ整えていかないといけない部分はたくさんあると思う。一つには、委員の意見にあったKPIのところ、その部分がもう少しきちんとした仕組みとして、どの部局でも同じような発想でKPIが設定できる取組が必要かなと思う。個人によらない仕組みをしっかりと出していく必要があると思う。まだまだ課題はあると思うが、当初の審議会をする前の状況に比べたら、これまでの審議のおかげで格段に良くなりそうになるというふうに今確信している。

それでは、こちらの取りまとめに関しては、一旦事務局にお任せしてよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(5) 次回補助金等審議会について

(事務局)

先ほどの内容を踏まえ、次回の補助金等審議会において、審議の最終確認、また最終答申について確認いただき、市長への答申としたいと考えている。

これまでの審議会と同様、午後1時30分からの開始を想定している。市長の日程を確認したところ、非常にタイトな日程調整となってしまうのだが、都合の合う日程を検討いただきたい。

(委員)

よろしいか。次回の次第はどういうイメージだろうか。答申案は事前に送付いただいて、意見があれば調整を行う。当日は最終確認して、市長に報告する。そのようなイメージか。

(事務局)

お見込みのとおりである。本日頂いた意見で何かしら進捗があれば、その点についても報告したいと考えている。

(会長)

最終の確認と市長への答申ということだな。最終回ということで、全員参加が望ましいということである。

協議の結果、3月9日（水）午後1時30分からと決まった。

※ 後日3月10日（木）午後1時30分に変更となった。

(6) その他

(事務局)

本日の審議結果も含め、答申案について、事前に送付・確認いただく形で進めたいと思う。意見いただければ、修正加える。

(会長)

よろしいか。その他何もなければ、以上で議事を終了する。ご協力ありがとうございました。

3 閉会